

(ア) 過去の遺構発掘調査の概要

遺構の発掘調査は、これまで2度実施されています。1回目は平成4年度で、弓道場建設に際して実施しました。

2回目は平成13年度で、県指定の史跡である飯山城址の整備・活用の検討にあたって、史跡指定区域の遺構の存在と位置確認を目的として調査しました。

平成4年度発掘調査の概要（南中門一帯：現弓道場付近）

■調査箇所



■確認された遺構

ロ 番所跡（ばんしょあと）

南中門に接した左側に位置しています。遺構はあまり明確ではありませんが、石列が一部において確認されています。この石列は外側に向かって面を描いていますので、建築材を乗せた石だと考えられます。

建物と推定される中には焼土をとまった浅い土坑が二か所見つかり、さらに建物西側にはゴミ捨て場と思われる遺物が集中して発見される場所もありました。



番所全景（溝は調査のための坑）

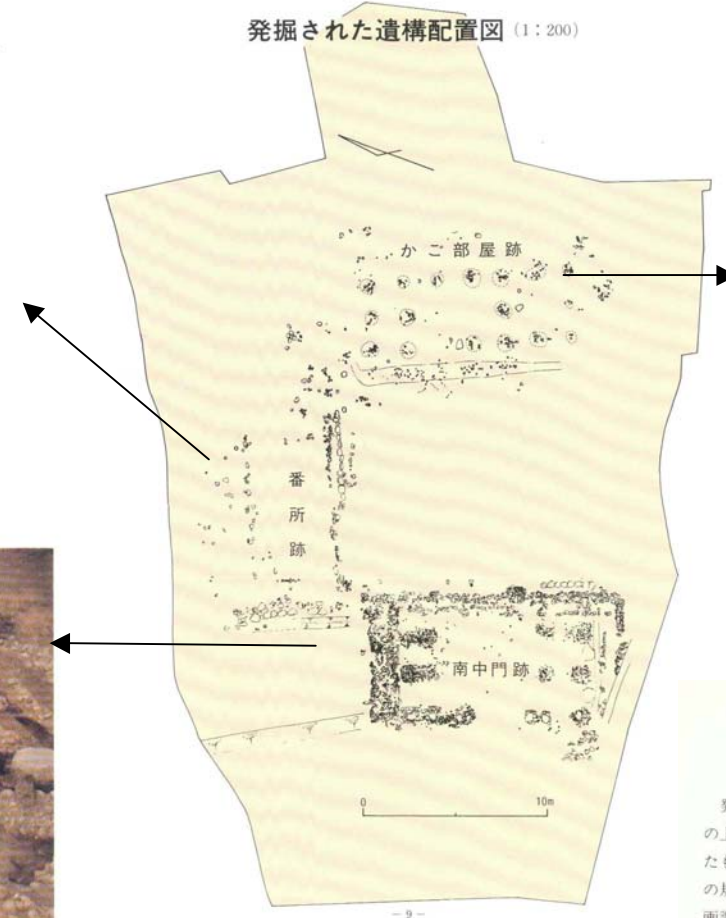


石列（西より）



南中門跡全景

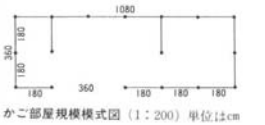
発掘された遺構配置図 (1:200)



ハ 駕籠部屋（かごべや）

南中門をくぐった正面に位置しています。小石のまとまった割栗石が発見されましたので、建物の規模も判明しました。間口6間（約11m）、奥行き2間（約3.6m）で、柱間隔は1.6～2.0mです。建物面積は約40㎡（12坪）で、古文書には雨落ち面積も入れて16.5坪（約54.5㎡）とありますので、残り4.5坪が雨落ち部分と考えられます。調査ではこの雨落ち部分をはっきりすることができませんでした。

建物の構造は柱の配置から考えると入口が二間（約3.6m）と広く、入ってすぐに土間と思われる約12㎡の広間があり、向かって左側には柱によって遮られた約6.5㎡（4畳）の高床の部屋があったと推定されます。また、右側には、約13㎡（8畳）の部屋があったと推定されます。



かご部屋規模模式図 (1:200) 単位はcm



駕籠部屋全景（南西より）

南中門の復元展示

発見された南中門跡をそのまま土と砂で覆い、その上に位置と寸法を違えず新しい石を配して復元したものです。建物は無くても、場所とともに南中門の規模が一目でわかります。この事業は市の都市計画課の事業で、市民の皆さんの協力をいただいて実施したものです（平成5年7月）。



1 盛土面を平壇に仕上げる



2 雨落溝を推定復元



3 発掘された栗石の直上に礎石を配置（建物の範囲を右開いて表示）



4 表面に芝を張る



5 門入口に石段を設置して完成

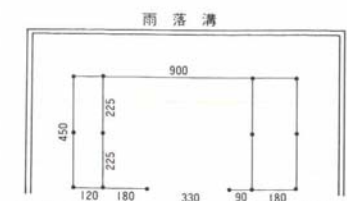
イ 南中門跡（みなみなかもんあと）

南大手門より帯曲輪を上って二番目にくぐる門が南中門です。古文書から、「間口五間・下坪 30.3 ただし雨落共」などがデータとしてわかっていました。

場所は畑地で、約 120 cm の段差がありました。この段の部分から南中門の構造物が発見されています。古絵図に示された場所と一致しますし、遺構の状況からも南中門跡と断定することができます。南側の一部が水道管の敷設によって破壊されていますが、ほぼ長方形に溝がめぐっていき、雨落ちの溝と考えられます。建物は溝に囲まれた内部で、細かな石が集合した場所がいくつかあります（下図で示したP）。これは、「割栗石」とよばれるもので、礎石を置くための基礎です。したがってこれらの上に礎石があったと考えられます。また、割栗石はそれぞれ規則正しく配列されているので、発見されたものは时期的に前後関係はあったとしても、規模自体は相違せず軒の建物の規模を想定することができます。その模式図を示したのが右の図です。

なお、向かって右側に大きな礎石が2点発見されています。下部には割栗石もなく、単に地山を掘りくぼめて据えたものです。以前の建物基礎かもしれません。

古文書通り、間口5間、奥行き2間半、下坪約30坪でした。



飯山城南中門規模模式図 (1:200) 単位はcm



東北隅より ▶

■調査箇所

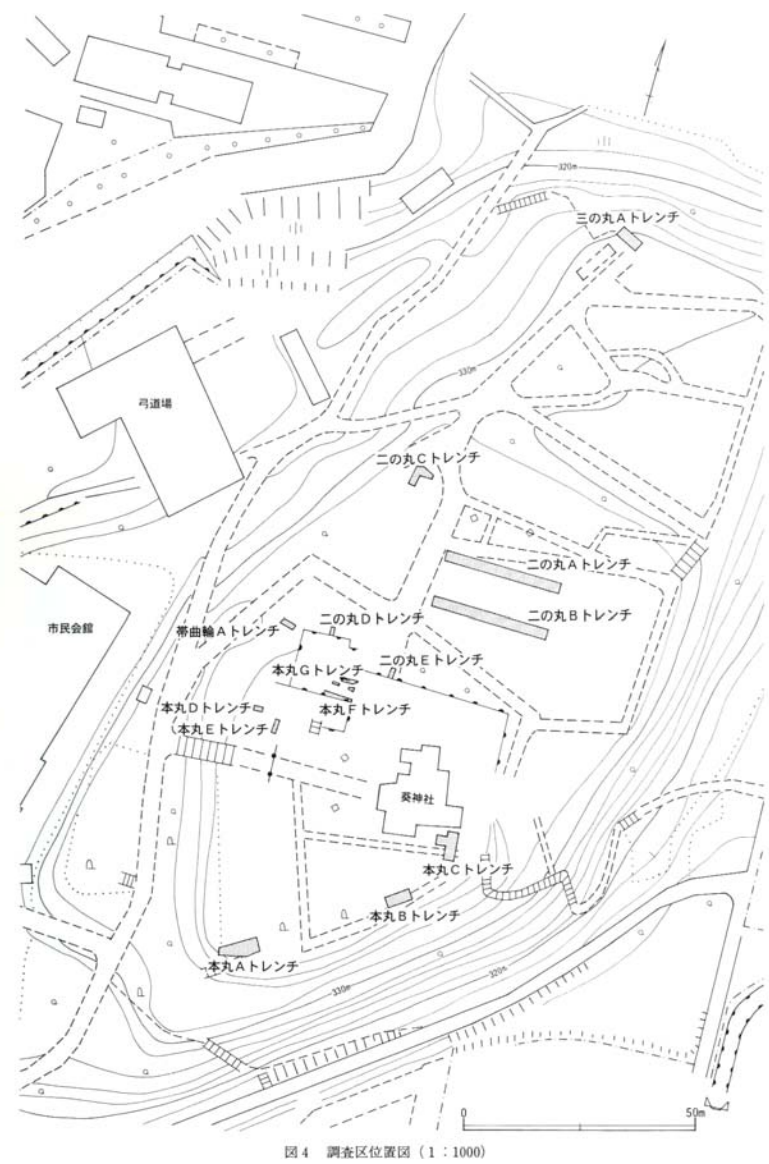


図4 調査区位置図（1：1000）

(2) 調査区の概要

各トレンチの概要一覧は下表のとおりである。

トレンチ名称	調査面積	確認遺構	発見遺物	備考
本丸 A	21.5	二重櫓跡	陶磁器・土器・銭貨	遺構確認調査
本丸 B	10	礎石・土抗・ビット	陶磁器・土器	遺構確認調査
本丸 C	16	不明	陶磁器・土器	石垣修理調査
本丸 D	2		陶磁器	石垣修理調査
本丸 E	3		陶磁器	石垣修理調査
本丸 F	5.5	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
本丸 G	7.2	石垣列・本丸門礎石	陶磁器	石垣修理調査
帯曲輪 A	7.2	石垣	陶磁器・鉄製品	石垣修理調査
二の丸 A	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 B	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 C	6.7	二の丸門跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 D	2	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
二の丸 E	3	石垣下端・根石	陶磁器	石垣修理調査
三の丸 A	10		陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
計	194.1㎡			

表1 各トレンチ調査状況

■確認された遺構

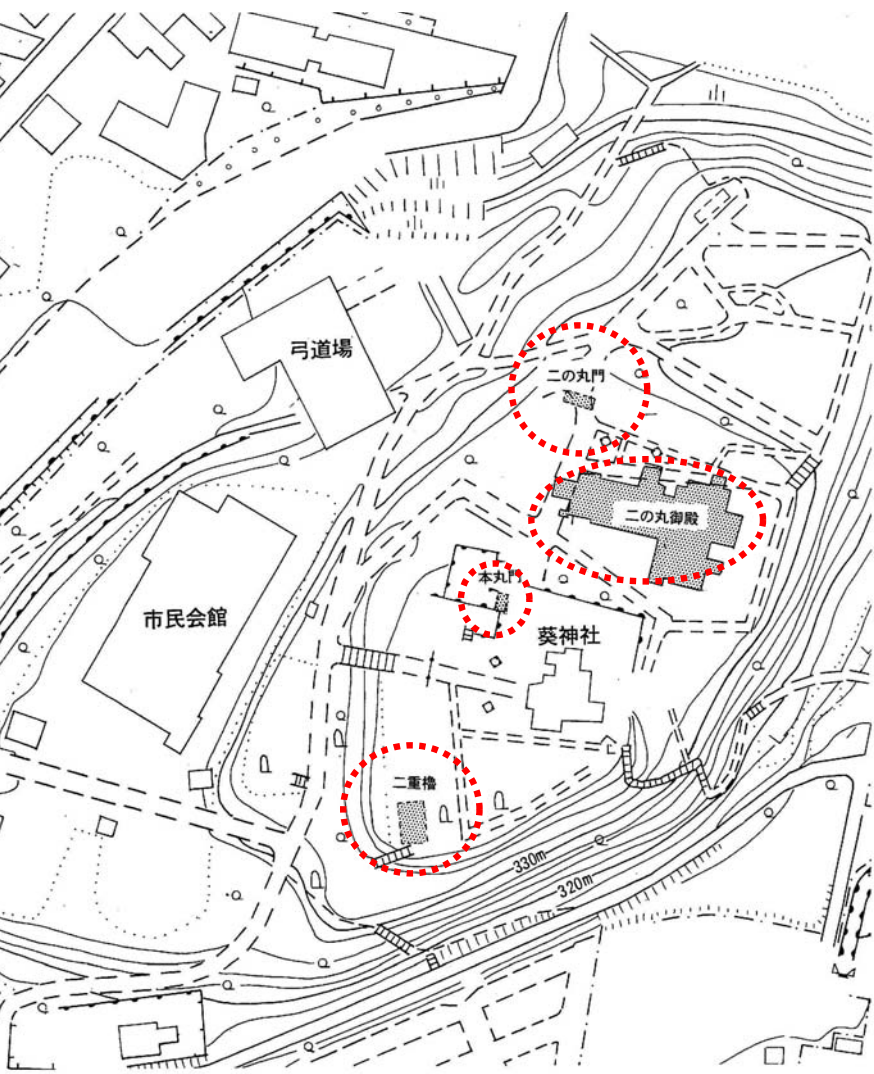


図19 確認遺構位置図（1：2000）

■本丸二重櫓

基礎の割栗石と推定される小石集中箇所を 3 箇所確認



写真4 本丸Aトレンチ近景



本丸二重櫓遺構

■二ノ丸門

門の基礎部と推定される割栗石を確認



写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況

■二ノ丸御殿

御殿の基礎部と推定される割栗石を確認



写真20 二の丸Bトレンチ遺構検出状況



写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況



二の丸御殿遺構

■三ノ丸二重櫓

建物跡と推定するに至る石等は確認できず。

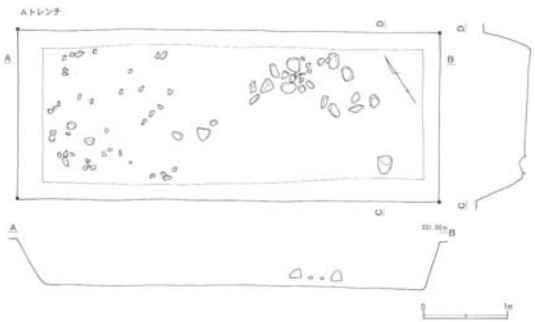


図18 三の丸Aトレンチ平面図（1：40）

■本丸門

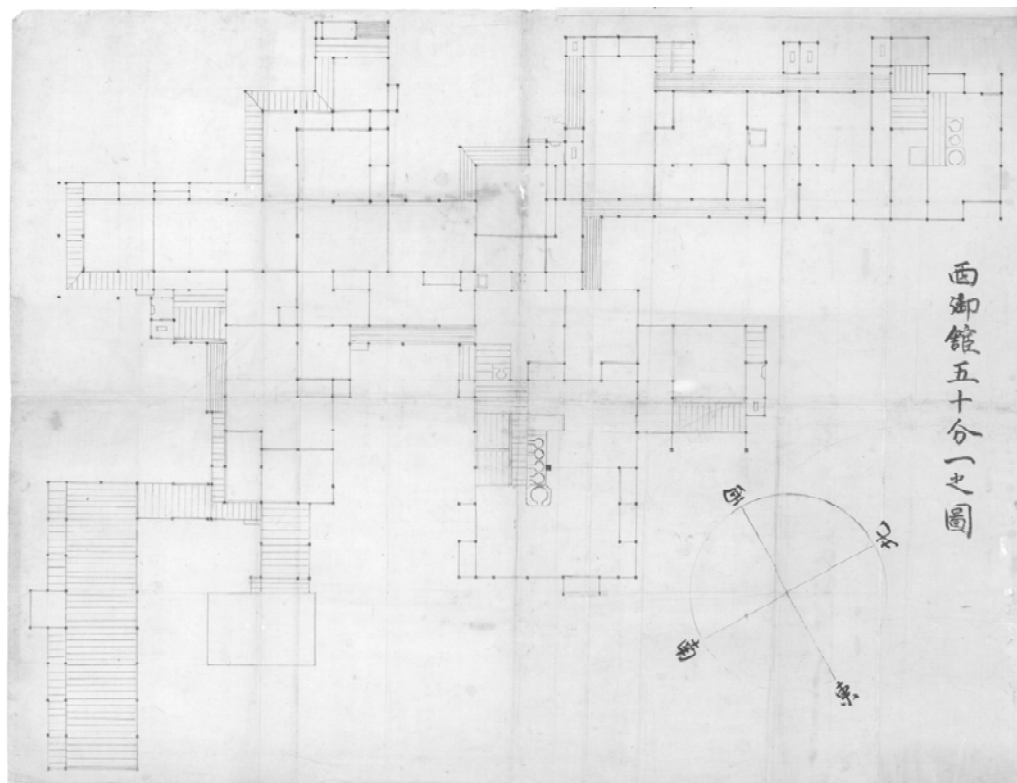
門の礎石と推定される遺構を検出



写真14 本丸Gトレンチ推定本丸門礎石

平面図が残る建築物

西館図面等資料



二の丸御殿の遺構調査・図面等資料



飯山城二の丸の確認調査(平成13年)



佐久間雲窓筆 飯山城之図からの拡大

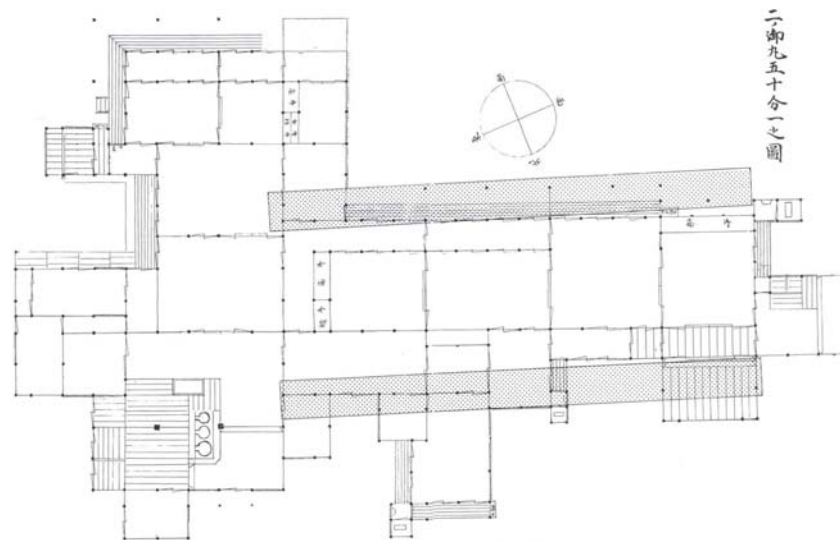


図13 二の丸御殿間取り図及びトレンチ設定対照図(1:200)

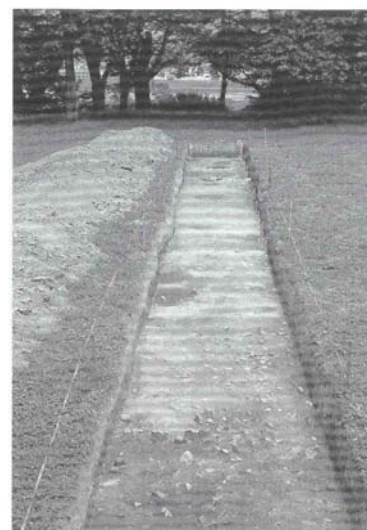


写真18 二の丸Aトレンチ遺構検出状況

(出典：長野県史跡飯山城跡 遺構確認調査報告 2002年3月 飯山市教育委員会)

門【移築されたと推測される門】

門	移築先の場所	門の形式等	該当する遺構の推定 (参考文献D)
信叟寺山門	長野市古里	大手門	南大手門の遺構
山田家裏門	中野市江部	櫓門	南中門 本丸門 ニノ丸門 西館門のいずれか
池田家表門	長野市田子	裏門 薬医門	南中門 本丸門 ニノ丸門 西館門のいずれか
旧丸山家長屋門	(城門として整備されている)	—	南中門 西館門のいずれか
林家表門	中野市上今井	城門 切妻造	—
妙専寺門	飯山市神明町	不明門 薬医門	—
妙福寺門	飯綱町三水	城門 冠木門	—
島田家土蔵	飯山市中条	城門門扉	—
鈴泉寺山門	中野市	—	—

門の形式等：第2回城山公園整備計画策定委員会資料1より
参考文献D：飯山城門遺構調査報告書 平成3年3月 信濃建築史研究室
—：資料のなかにかくに記載のない門



山田宅(中野市)



池田宅(長野市)



信叟寺(長野市)



上記のほか、
中野市鈴泉寺
の山門も飯山
城から移築さ
れたものでは
あることを把握



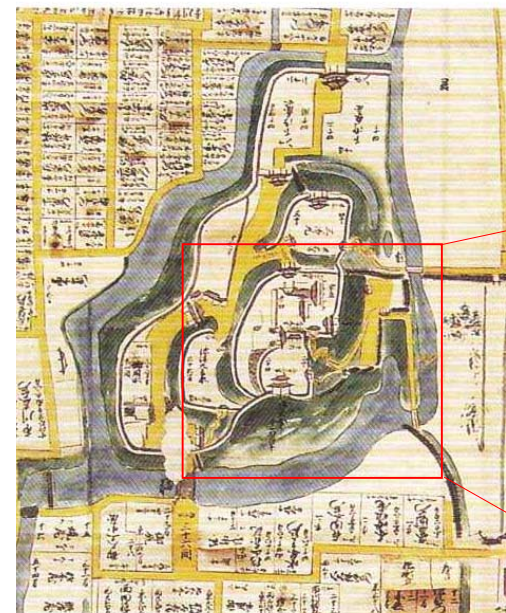
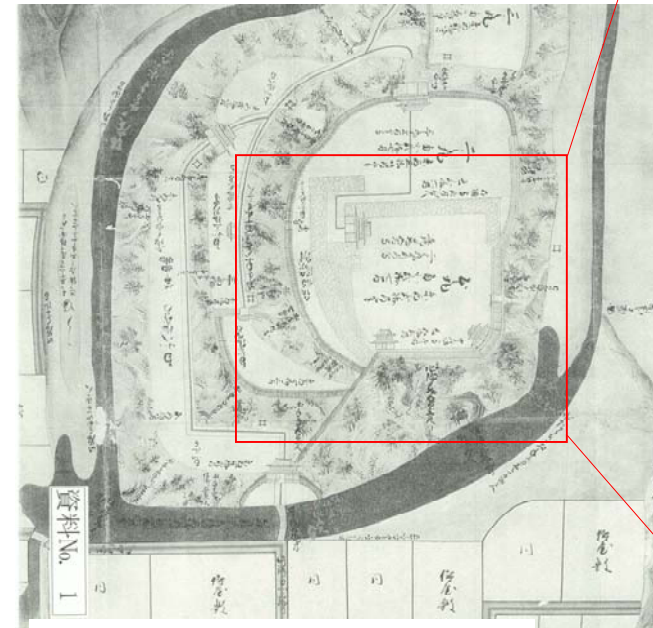
櫓・御殿等の遺構・詳細のわかる絵図

飯山城を鳥瞰で伝える絵図



※絵図上の建築物における名称は推測です

石垣 堀 柵のわかる絵図面の一例 （本丸二重櫓付近）



さくまうんそう 飯山城之図
佐久間雲窓筆 飯山城之図
佐久間雲窓は、飯山藩士であるとともに優れた画家でもありました。彼は享和元(1801)の生まれで、明治17年2月3日逝去しました。享年84歳。
本絵図は、花鳥を専門とした雲窓には大変珍しいもので、比較的若い時期のものではないかと考えられます。飯山城の絵図面は多く存在していますが、建物については門の位置を除いてほとんど記載されることがなく、本図のように門や二の丸御殿・櫓(やぐら)と考えられる建物などが写實的に描かれる例はほかになく、飯山城内を知るうえで大変貴重なものです。

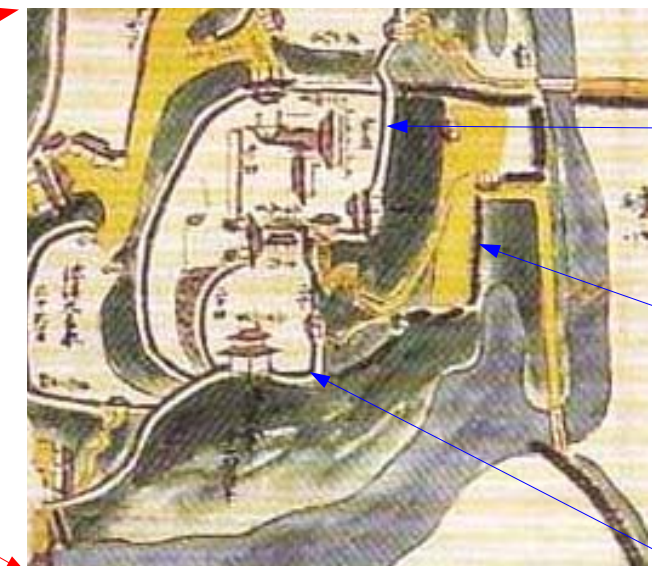
佐久間雲窓筆 飯山城之図
(市民会館 ギャラリー掲示資料)



板塀

正保の絵図(1645年頃)

- ・この時代は柵と板塀（本丸南と東側）で囲まれてます。
- ・二重櫓は2棟あり、石垣は本丸と二ノ丸の間のほか本丸の西側でも確認できます。



土塀

柵部分

土塀

松平氏時代城下町絵図（部分）

- ・坂下門から本丸にかけては柵であるが、そのほかの曲輪は土塀となっています。
- ・松平氏により確実に城が整備されてきた経緯が絵図から読み取れます。

(ウ) 遺構の現状及び史料収集の状況

区域	図番号 (12ページの図参照)	名称	現地の状況	遺構の発掘状況・特徴		規模・様式等			現時点での史料の収集・蓄積の程度		
				遺構発掘調査 実施状況 (13～16ページ参照)	遺構等の確認状況 (他史料からわかる特徴等)	広さ 【文献A】	規模 【文献B】	形式等 【文献C】	寸法のわかる平面 図の現時点での有 無	建築様式の詳細が わかる資料等(絵図 面からの推測は除 く)	江戸時代末期の状 態の復元を行う場合 の資料の蓄積の程 度
南中門～弓 道場	C12	南中門	遺構明示	実施(H4)	礎石を置くための割栗石が古文 書と同等の範囲で確認	30.3坪	5間、袖西1 間1尺 東1 間4尺	櫓門形式 潰れ (二層門)	有(移築先の門の 図面・実物等)	旧丸山家長屋 門等	△
	D3	番所	弓道場	実施(H4)	建築材を載せたと推測される石 列を確認	19.5坪	記載あり	記載なし	発掘で規模確 認	文献から規模 程度	△
	E1	駕籠(乗物) 部屋	弓道場	実施(H4)	柱間隔等が確認できる割栗石の まとまりを確認	16.5坪	6間 2間 (発掘調査結果 から把握)	記載なし	発掘で規模確認	文献から規模 程度	△
		塀	弓道場と駐車場境 界の石垣	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
北門 ～弓道場	C9	北門 北大手門	グラウンド	未調査	移築されたとされる門のなかで該当する ものがみあたらない	30坪	5間5尺 袖 左右共5尺	櫓門形式 破損	無	無	△
	D1	番所	グラウンド	未調査	—	—	—	—	無	無	▲
		三日月堀	グラウンド	未調査	—	—	—	—	無	無	▲
	C10	北中門	園路	不明(確認困難)	(最初は門造りであったが、幕末期は屋 根なしの仕切板程度)	—	記載あり	—	無	無	▲
		土塁	残存	—	—	—	—	—	—	現物残存	○
		桜井戸	残存	—	—	—	—	—	—	現物残存	○
		塀	グラウンド等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
西曲輪	C7	西館門	市民会館	未調査	(寺院等へ移築)		4間	屋根付	有(移築先の門の 図面・実物等)	山田家裏門 池田 家表門	△
	C8	西館裏門	園路	不明(確認困難)	—		6尺 塀重 門	屋根付	無	不明	▲
		西館	市民会館	未調査	—	建物平面 図あり	建物平面 図あり	建物平面 図あり	有	平面図と絵図面で 判断可能	○
		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
帯曲輪		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲

— 対象外の項目

参考文献の出典

文献A:元文4年 御城内建坪書上帳(弘化4年写)

文献B:文化9年 御城内覚留(弘化4年写)

文献C:弘化4年 飯山城絵図(地震破損箇所書上)

○史料が有り、復元は比較的早期に可能と考えられる遺構。
△:絵図面など参考となる史料がある、また発掘で遺構の存在は確認されたものの材料等、細部の情報不足(寸法と材料の判断が困難)
▲ 史料不足(参考となる史料がほとんどない)

区域	図番号 (12ページ の図参照)	名称	現地の状況	遺構の発掘状況・特徴		規模・様式等			現時点での史料の収集・蓄積の程度		
				遺構発掘調査 実施状況 (13～16ページ参照)	遺構等の確認状況 (他史料からわかる特徴等)	広さ 【文献A】	規模 【文献B】	形式等 【文献C】	寸法のわかる平面 図の現時点での有 無	建築様式の詳細が わかる資料等(絵図 面からの推測は除 く)	江戸末期の状態の 復元を行う場合の資 料の蓄積の程度
三ノ丸	C5	三ノ丸門 (西門)	植栽地	未調査	—	1.7坪	6尺5寸 塀 重門	屋根なし	無	無	▲
	C6	三ノ丸門 (東門)	植栽地	未調査	—		6尺6寸 塀 重門	屋根付き 潰れ	無	無	▲
	A2	二重櫓	斜面ないしグラ ウンド	実施(H13)	H13調査 遺構確認できず	—	4間半×3 間半	—	無	無	▲
		三年坂	残存			—	—	—	—	現物残存	○
		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
二ノ丸 (県指定史跡)	C3	二ノ丸門	植栽地	未調査	H13調査 礎石の存在を確認	28坪	5間2尺 袖 西2間半 東2間	櫓門形式 半潰れ	有(移築した寺院 の門の図面・実物 等)	山田家裏門 池田 家表門	△
	B1	二ノ丸御殿	植栽地	実施(H13)	H13調査 礎石の存在を確認	建物平面 図あり	建物平面 図あり	建物平面 図あり	有	平面図と絵図面で 判断可能	○
	C4	坂口門	植栽地	未調査	未調査				無	無	▲
		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
本丸 (県指定史跡)	A1	二重櫓	植栽地	実施(H13)	H13調査 礎石の一部を確認		5間半×3 間半		無	なし	△
	C1	本丸門	—	実施(H13)	H13調査 礎石の存在を確認	24坪	5間	渡櫓 ただし 絵図では平 屋	有(移築先の門の 図面・実物等)	山田家裏門 池田 家表門	△
	C2	不明門	—	実施(H13)	H13調査 遺構確認困難	4.3坪	2間4尺袖 共	冠木門屋根 付 潰れ	有(移築先の門の 図面・実物等)	妙専寺山門の可 能性あり	△
		石垣	一部残存 一部斜面	一部実施(H13)	—	—	—	—	発掘区域での 記録有	現物一部残存	○
		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
東側一帯	C13	坂下門	東駐車場	未調査	寺院等へ移築	15坪	6尺6寸	屋根付 潰れ	無	無	▲
坂下門→本丸		柵	植栽・樹林等	未調査	(絵図面からは木柵と推測され る)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲
南大手門	C11	南大手門	園路	未調査	寺院等へ移築	32坪	6間 袖左 右共6尺	櫓門形式 潰れ	有(移築先の門の 図面・実物等)	信叟寺山門	○
	D2	番所	民家	不明(確認困難)	—	—	—	—	無	無	▲
	C14	渡門	民家	不明(確認困難)	—	—	—	—	無	無	▲
		堀	畑地・民家	未調査	—	—	—	—	無	無	▲
		扇坂	園路	不明(確認困難)	—	—	—	—	—	—	▲
		塀	植栽等	—	(絵図面を見る限り白塀、板葺き が主)	記載なし	記載あり	記載なし	無	無	▲

— 対象外の項目

参考文献の出版
文献A: 元文4年 御城内建坪書上帳(弘化4年写)
文献B: 文化9年 御城内覚留(弘化4年写)
文献C: 弘化4年 飯山城絵図(地震破損箇所書上)

○史料が有り、復元は比較的早期に可能と考えられる遺構。
△: 絵図面など参考となる史料がある、また発掘で遺構の存在は確認されたものの材料等、細部の情報不足(寸法と材料の判断が困難)
▲ 史料不足(参考となる史料がほとんどない)

(5) 城跡の課題

往時の地形と現在の状況を比較し、城跡としての価値を保つうえで、課題となる箇所を図にまとめます。



図 2.1.11 城跡の現状と課題

■西入口～西曲輪



現在の主要な入口（西入口）



市民会館（西曲輪）



切岸の分断（東曲輪）

■往時の通路の状況



城門



明確な動線のない区間



水みちの発生（三年坂付近）



桜井戸跡を示す石碑

■三ノ丸・二ノ丸



三ノ丸の洋風庭園（三ノ丸）



二ノ丸の広場（二ノ丸）

■本丸・東曲輪一帯



外周・広場に大きな木々が茂る状況（本丸）



園内に多くみられる石碑の一例（東曲輪）



往時の面影を伝える本丸石垣と櫓形



廃城令後建立された葵神社（本丸）



切岸から垣間見える本丸石垣

■南大手門付近



南大手門の南側の栄川



往時の入口

2.2 公園の現況と課題

(1) 公園の歴史

明治4(1871)年の廃藩置県及び明治6(1873)年の廃城令を受け、飯山城は解体され、明治6年の太政官布達(日本最初の公園指定)に基づいて公園に指定されました。

その後、昭和34年から現在のような公園としての整備が本格的に進められ、昭和40年には本丸と二ノ丸の区域が長野県史跡に指定され、昭和57年に都市公園として市条例で位置付けられました。その経緯を下表にまとめます。

表 2.2.1 城山公園整備の経緯

和歴(西暦)	項 目	城跡	公園	備 考
永禄7年 (1564)	築城			上杉謙信が信濃経略の前線基地として本格的に築城
明治4年 (1871)	城の解体			廃藩置県により城郭は取り壊され、門や櫓は払い下げられた
明治16年 (1882)	葵神社の建立 公園として開園		●	S31.5.28 葵神社に所有権保存登記 太政官布達に基づいて指定
昭和31年 (1956)	城址の一部を市が寄付を受ける			S31.10.25 所有権移転登記
昭和34年 (1959)	城山の公園整備はじまる (4年間)		●	千葉大の設計提案を基に整備(遺構把握なし)
昭和38年 (1963)	市民会館建設		●	
昭和40年 (1965)	長野県史跡指定「飯山城跡」	●		本丸・二ノ丸を指定
昭和57年 (1982)	都市公園指定		●	市条例により指定
昭和58年 (1983)	城山公園整備基本計画策定	●	●	
平成2年 (1990)	武道館建設		●	
平成3年 (1991)	飯山城門遺構調査	●		信叟寺山門、池田家表門、旧丸山家長屋門、妙専寺山門、山田家裏門
平成5年 (1993)	弓道場建設／南中門遺構復元／駐車場整備		●	
平成6年 (1994)	飯山城跡自然調査／城門建築／トイレ建設 記念植樹	●	●	植物・鳥などの調査／桜・ケヤキ 92本植樹
平成7年 (1995)	城山お休み処建設／城山下ポケットパーク整備		●	
平成13年 (2001)	城山公園内の土地調査	●	●	登記簿調査、地籍調査および測量
平成14年 (2002)	史跡遺構確認調査／本丸石垣修復	●		
平成18年 (2006)	樹勢回復事業	●	●	

(2) 公園の概要

城山公園は、市民の憩いの場として親しまれており、多くの市民が訪れます。

特に桜の花見のシーズンには賑わいを見せています。

最近では歴史ブームや高橋まゆみ人形館開館と相まって、幅広い世代が城跡を探訪したり、周辺の景色を楽しむために来園しています。

公園内には、市の主要な公共施設の一部である市民会館、弓道場、武道館が整備されています。これらの施設の利用があることから、合計で155台の駐車スペースが確保されています。なお、老朽化が目立つ市民会館は、平成27年度までに別の場所へ移転されることとなっています。

北側の一角にはグラウンド、テニスコート、プール等があり、飯山高校の体育施設としての利用される見込みです。

表 2.2.2 公園施設の概要

公園面積	6.49ha（供用開始 昭和 56 年 7 月 26 日告示）
史跡面積	1.07ha（長野県史跡（本丸・二ノ丸） 昭和 40 年 7 月 29 日指定）
主な施設	市民会館、弓道場、武道館、城門、トイレ（2 棟）、お休み処、遊園地、ポケットパーク、駐車場（155 台）、グラウンド
植生・植栽	・サクラ類約415本（ソメイヨシノ、オオヤマザクラ、エドヒガン、シダレザクラ）とケヤキ約70本が主要な樹木で、これらで中高木の約3/4を占める。このためサクラの城山として親しまれ、「けやき城」などの呼び名もある。 ・下層にはアジサイが多く植栽されていることも特徴の一つ。
その他	・葵神社（氏子：田町、福寿町、北町）が鎮座している。 ・公園内には飯山市有地のほかに民地が所在している。 ・公園内での行為は都市公園法及び文化財保護法が適用される。

城山公園は、独立した丘陵の平山城であったことから、切岸の斜面にはケヤキの巨木が生育する豊かな自然が残されています。また、サクラも多く植えられており、樹木の多い公園といえます。

現存する樹木の位置図と本数の内訳を図2.2.1から2.2.3に示します。

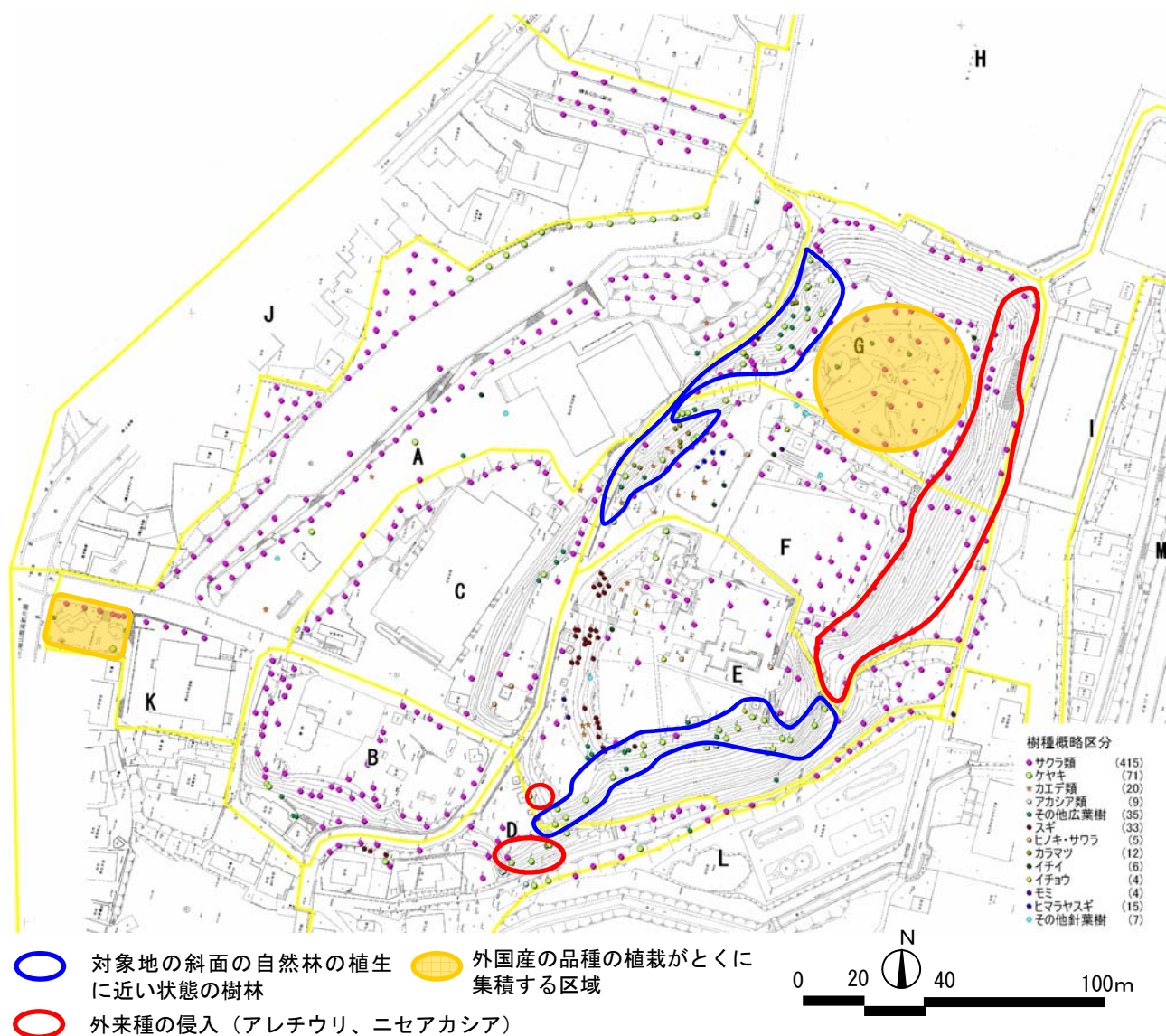


図2.2.1 中高木位置現況図

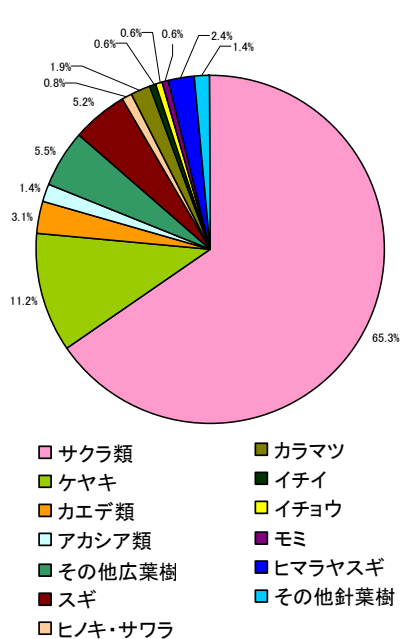


図2.2.2 全体の樹木本数の種別構成比

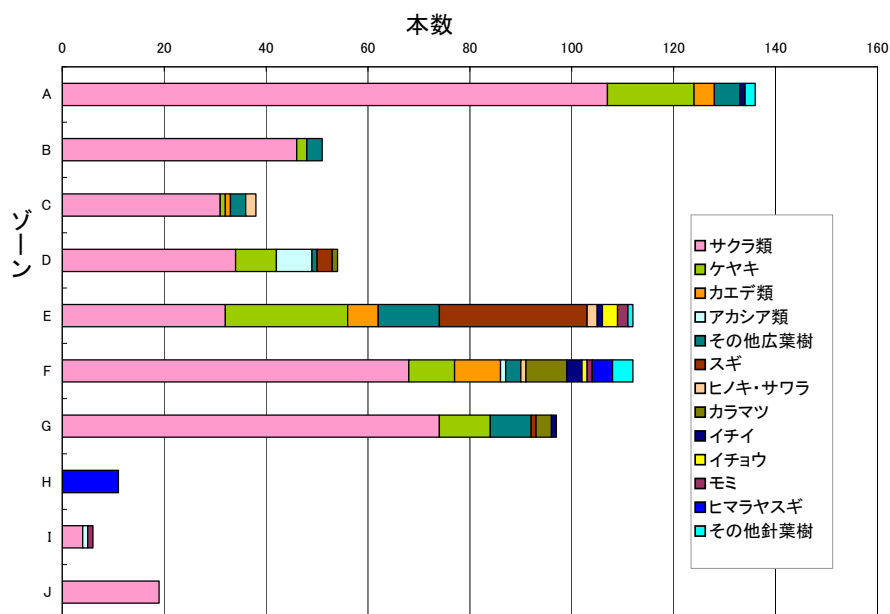


図2.2.3 ゾーン別樹木本数内訳

(3) 公園の課題

城山公園には、県史跡指定の区域を取り囲むような形で、公園施設や体育施設等様々な施設が配置されています。

これらの利用や、現在の公園としての機能との調和を図りながら、整備を進める必要があると考えられます。

また、高齢化したサクラ、老朽化した遊具など、年数を経てきたことで園内も変化してきています。必要な対策を講じたり、見直しが必要な箇所がみられます。

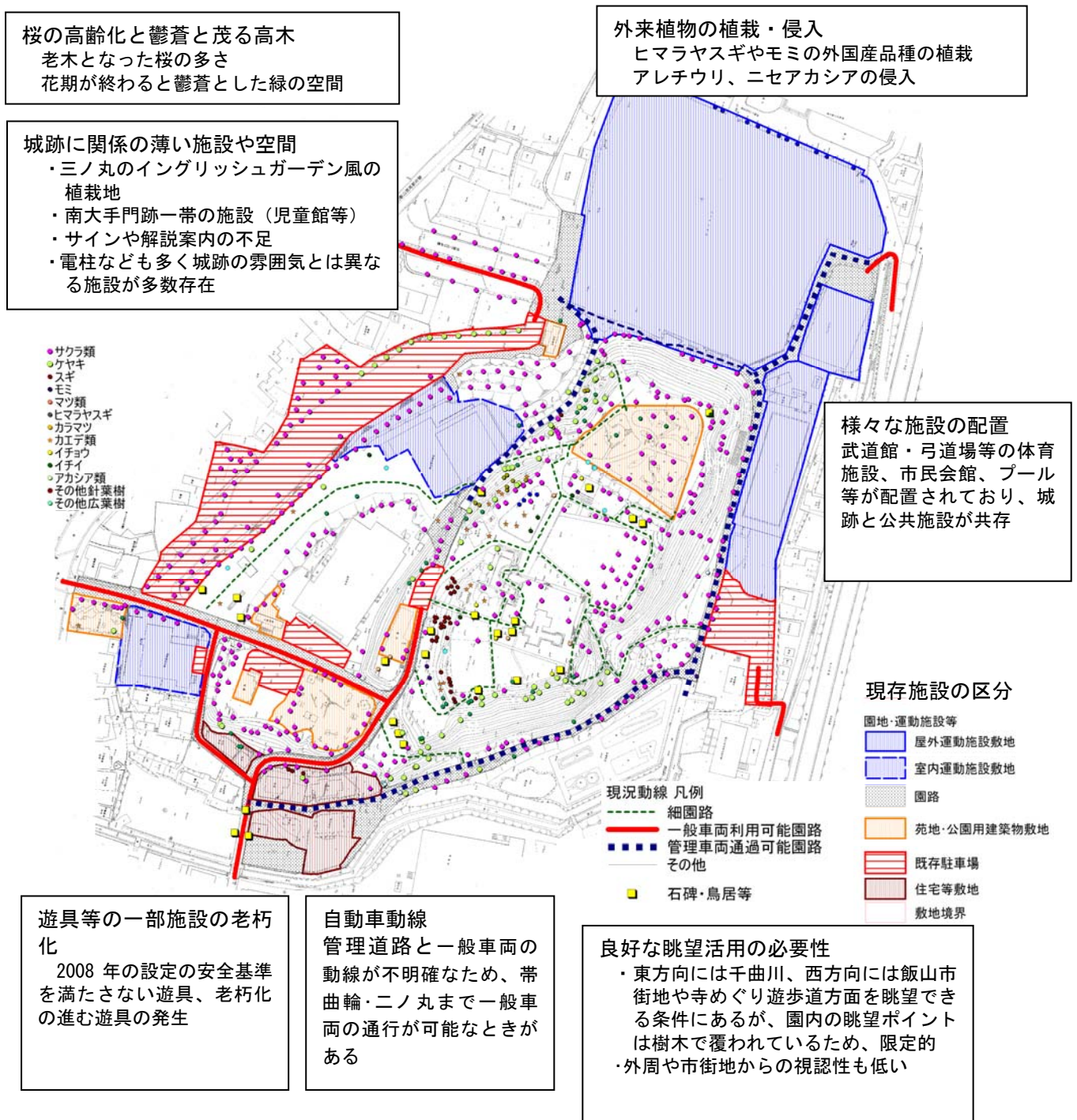


図2.2.4 公園の課題図

■サクラの密度の高さ・生育不良な個体の状況



密に高木が茂る広場
(ニノ丸)



石垣上のサクラ(本丸)

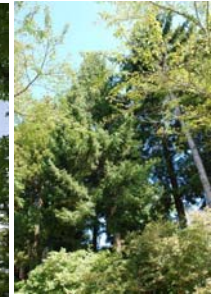
■外来植物の状況



アレチウリに
覆われたサクラ



ヒメラヤスギ・外国産のモミ
などの植栽



■城跡に不似合いな空間等の状況



三ノ丸の庭園(三ノ丸)



南大手門付近の現状



■園内の様々な施設



弓道場



グラウンド



武道館とポケットパーク

■遊具の状況



老朽化のみられる遊具



■一般車両の進入



本丸石垣下まで一般車両の通
行が可能な時がある

■その他公園内に見られる様々な施設等



忠魂碑(ニノ丸)



スキージャンプ台の土台跡と
スキー発祥の地の案内サイン



史跡表示の
サイン



外周管理道路



トイレと西入口の無散水
融雪道路

■城山公園の外周からの見え方



城見橋からの眺め



南大手門付近からの眺め



国道からの眺め